

日・シンガポール共同研究 「セルセラピー」 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名： ハイドロゲルプリンティング技術を用いた毛包原基の大量調製技術の開発
発

研究開発代表者名： 景山 達斗（神奈川県立産業技術総合研究所）

本課題は、脱毛症等の治療として社会的ニーズが高い毛髪再生分野において、毛包原基の大量調製技術の開発、マウスへの移植による毛髪再生、脂肪細胞や増殖因子・サイトカイン等の作用の検討を行い、当初予定していた研究を着実に進めた。さらに、毛包原基の凍結保存技術を獲得するなど、当初計画を超える成果を創出したと評価された。加えて、日本とシンガポール間での共同研究が効果的に行われ、研究成果の論文報告、学会発表が十分に行われた。

一方で、報告書には毛包原基の移植により再生した毛髪の質の評価や、沢山の成果を得ながら特許出願に至っていない理由に関する記載がなく、不明瞭であった。今後、臨床応用に向けた、橋渡し研究の具体的な展望と推進、新規若手研究者の参画を含めた、両国の研究グループの更なる発展を期待したい。